【特別支援学校用】
令和３年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である

学校名	佐賀県立盲学校
1 前年度評価結果の概要	・自立と社会参加に向けた力の育成のために、保護者や関係機関と連携を取りながら、幼児児童生徒の実態に応じた支援・指導を行った。 ・専門性向上に向けた研究・研修の充実のために、職員研修等を通して専門性の向上に努めた。また、力を引き出す授業の実践を念頭に校内研究を進めた。 ・「目の支援センター ゆうあい」を中心に、関係諸機関とも連携しながら、弱視学級との連携や、地域に対する支援、啓発活動等を行い、センター的機能を周知することができた。
2 学校教育目標	視覚に障害のある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な支援を行い、自立と社会参加及びゆとりある人格の形成を目指す。 －明朗・友愛・自立－
3 本年度の重点	『夢をはぐくみ、未来をひらく盲学校』～アップデートと持続可能性～ （１）自立と社会参加に向けた力の育成（幼児児童生徒） （２）専門性向上に向けた研究・研修の充実と力を引き出す授業の実践（教職員） （３）視覚障害教育センター的機能の充実と周知（社会・地域）

4 重点取組内容・成果指標　／　5 最終評価

（1）共通評価項目

評価項目	重点取組 取組内容	成果指標（数値目標）	具体的取組	達成度	最終評価 実施結果	評価	学校関係者評価 意見や提言
●学力の向上	●幼児児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着	○あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師国家試験模擬試験で合格圏内の生徒100% ○「学力の定着が図られた」「自立活動や各教科等を合わせた指導における指導と評価が適切に行われた」と回答する教員・保護者80%以上	・学習内容及び方法を適切に設定し、学習評価を通して効果的な学力の向上を図る。 ・国家試験・大学入試対策として、模擬試験、補習授業、課題配布及び課題テストを実施する。 ・全国学力・学習状況調査や県小・中学校学習状況調査、単元テスト、点字テスト、珠算検定等各種検定等を通して個々の学力の把握に努める。 ・自立活動の指導内容及び方法、評価等を適切に実施する。 ・各教科等を合わせた指導では、一人一人の実態に応じた適切な指導の在り方に留意する。	B	・あはき師国家試験模擬試験で合格圏内の卒業学年の生徒は80%であった。 ・「学力の定着が図られた」「自立活動や各教科等を合わせた指導における指導と評価が適切に行われた」と回答した保護者は100%、職員は97%であった。	B	個々に合わせた多くの取り組みに感謝している。限られた時間の中で、様々な授業内容を考えてもらっている。（保護者）
●心の教育	●幼児児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「将来の自立と社会参加に向け、生きる力や豊かな心を身につけさせる指導が、発達段階に応じて適切に行われた」と回答する教員・保護者80%以上	・幼児児童生徒一人一人の夢や希望をふまえ、学校生活のあらゆる場面で支援と働きかけを行い、生きる力を育てる。 ・防犯、薬物、性教育講話等、さまざまな角度から人権意識の向上に努める。 ・幼児期から特別活動や学校行事等への参加を通して望ましい人間関係を形成し、集団意識を高め、他者への思いやりや社会性を養う。	A	アンケートの「将来の自立と社会参加に向けた各種教室を実施し、生きる力や豊かな心を身につけさせる指導が発達段階に応じて適切に行われている」の質問で、「あてはまる」と回答した職員は100%であった。交流及び共同学習やスポーツ交流会、バラスポーツの体験会等をとおして、他者への思いやりや他者との関わりについて学ぶことができた。	A	特になし。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「幼児児童生徒が安心して学ぶことができる環境作りに努め、一人一人の不安や悩みに寄り添いながら、いじめのない学校作りに取り組んでいる」と回答する教員・保護者80%以上	・学校生活アンケートを実施して一人一人の心の状態を把握し、安心して学べる環境づくりに努める。 ・教育相談体制を充実させる。 ・スクールカウンセラーによる講話と演習を通して自己解決能力を高める。	A	・学校生活アンケート（年3回）を実施した。今後も、各学部・クラスで幼児児童生徒の実態を把握し早期発見・早期対応に努めたい。 ・生徒の学校生活での不安や不満、悩み等を把握し、学部と生活指導部が連携を取りながら対応することができた。 ・児童生徒に対して、スクールカウンセラーからは毎回適切なアドバイスをいただいており、担任団と学部で指導に当たることができた。	A	特になし。
	◎幼児児童生徒が夢や希望を持ち、将来の自立と社会参加に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「幼児児童生徒の夢や希望に応じたキャリア教育及び職業教育ができている」と回答する職員・保護者80%以上	・キャリアパスポートを活用し、児童生徒が自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりできるようにする。	A	・学期毎・行事毎の目標を設定し、振り返りを行うことで、幼児児童生徒が主体的に考え意欲的に目標に取り組めるよう指導・支援を行った。 ・「幼児児童生徒の夢や希望等に応じたキャリア教育及び職業教育ができている」と回答した保護者は96%であった。	A	視覚障害者の雇用、福祉サービス利用の現状と課題等の情報が欲しい。（保護者）
●健康・体つくり	●望ましい生活習慣の形成	○「健康観察簿」の記入・提出状況100% ○「日々の健康チェックを通し、将来の自立と社会参加に向けた生活習慣の確立に努めている」と回答する教員・保護者80%以上	・「健康観察簿」への記入と活用を促し、健康チェック（朝食・歯磨き・検温）の習慣を身につけさせる。 ・「保健だより」を毎月発行し、基本的生活習慣の形成に役立つ情報を発信する。 ・長期休業前に生活指導と保健指導の両面から講話を行い、生活習慣形成への意識付けを行う。	A	・毎朝の「健康観察簿」への記入・提出は、各クラスともほぼ100%を達成した。各クラスでは、観察簿への記入をしながら幼児児童生徒との対話の時間を持つようにした。こうした対話をとおして、担任は健康状態を把握し、幼児児童生徒が毎日の健康チェック（朝食・歯磨き・検温）への意識づけができるように支援をした。 ・新型コロナウイルス感染に関しては、県からの指導・助言を仰ぎながら正確な情報を入手し、迅速な対応と広報を心掛けた。また、このことに関して、不当な差別につながらないよう配慮をした。	A	特になし。
●地域支援	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	○「地域一般に対する効果的な相談支援活動や啓発・広報と、地域の見えにくさのある幼児児童生徒への有効な教育的支援が行われた」と回答する教員80%以上	・「目の支援センター　ゆうあい」として、地域に対し相談支援活動や啓発・広報活動等を行う。 ・弱視学級や見えにくさのある幼児児童生徒の所属校等と連携し、研修会の実施や定期的な情報提供等を行う。 ・巡回相談を行う学校・園に対し、実態や状況に応じた助言を行う。	A	・コロナ感染症の影響もあったが、今年度は地域への啓発・広報活動として県内の関係諸機関訪問も行った。また、高校生を対象に啓発事業として「きてみてんさいinもうがっこう」や一般を対象とした「点字点訳入門」も実施し、参加者から高い評価を得た。 ・弱視学級等との連携についても、研修会の実施や巡回相談、電話やメールなどでの相談などきめ細かく行っていた。 ・巡回相談については県内各地の幼保小中学校及び高等学校、特別支援学校より依頼があり、見え方に関する助言等を行った。 ・「地域一般に対する効果的な相談支援活動や啓発・広報と、地域の見えにくさのある幼児児童生徒への有効な教育的支援が行われた」と回答した教員は100%であった。	A	特になし。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する職員100%	・定時退勤日を設定し、計画的に業務を行う。 ・必要に応じて学校行事や各校務分掌等の業務内容を見直す。	B	・毎週水曜日を定時退勤日としており、月あたりの時間外勤務時間が45時間以内の教職員の割合は98%、30時間以内の教職員の割合は89%であった。 ・定例の会議や行事の必要性を精査し、削減や省略を含め業務の効率化を図った。また、必要な会議、行事については、リモート会議の実施、校務システムの掲示板やメッセージ機能の活用、資料の事前配布、集合時間の厳守で効率よく進め、時間外業務の削減に努めた。	A	特になし。
	○円滑な教育計画の実施	○「重点目標達成のための年間行事計画が作成され、授業時間数の確保と学校行事等が両立できた」と回答する教員80%以上	・曜日の振替等により授業時間数の確保に努めるとともに、学校行事等のために必要な時間を確保する。 ・学校行事に関しては、計画やねらいを職員間で共有し、円滑に運営する。	A	・新型コロナウィルス感染症防止のため、一部の行事では内容の規模縮小・中止・延期をしたが、授業時数の確保と学校行事の両立ができた。 ・曜日の振替を適切に行い、授業時数の偏りを解消した。 ・行事については各種会議等をとおして職員の共通理解を図り、限られた時間で最大限の効果を上げられるように努めた。	A	新型コロナ感染防止のためにリモート授業やリモート配信による行事の中継をしていただき、ありがたかった。（保護者）

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組 重点取組内容	成果指標	具体的取組	達成度	最終評価 実施結果	評価	学校関係者評価 意見や提言
○教育活動	○個別の教育支援計画	○「幼児児童生徒及び保護者の希望やニーズに基づいた個別の教育支援計画が作成され、運用された」と回答する教員・保護者80%以上	・本人・保護者の希望やニーズを的確に把握し、作成懇談や支援会議を通して、個別の教育支援計画を作成・運用する。	A	・予定されていた支援会議は8月までにすべて実施し、そのほとんどに本人と保護者および関係機関が参加し、希望やニーズをもとにした計画を作成できた。 ・「幼児児童生徒及び保護者の希望やニーズに基づいた個別の教育支援計画が作成され、運用された」と回答した教員・保護者は９５%以上であった。	A	盲学校では、児童生徒一人一人の障害特性に応じ、適切な支援がなされていると感じる。また、保護者や関係機関等との連携も図られていると思う。来年度も、引き続き児童生徒の自立と社会参加に向けた取り組みをお願いいたしたい。（学校評議員）
	○個別の指導計画	○「個別の指導計画を生かした指導・支援が適切に行われた」と回答する教員・保護者80%以上	・個々の実態と教育的ニーズに応じた指導計画を作成し、職員間、保護者との情報共有を密にしながら指導・支援を充実させる。	A	幼児児童生徒一人一人の実態に即した指導計画を作成し、各学部・学科全体で合理的配慮や必要な手立てを共有しながら指導にあたった。また、到達段階などの評価や確認を随時行い、適宜修正や変更を行った。「幼児児童生徒の実態に基づいた個別の指導計画を作成し、適切に指導・支援が行われている。」と回答した教職員は９７%、保護者は１００%であった。	A	
	○校内研究・職員研修の充実	○「校内研究・職員研修により指導力が向上した」と回答する教員80%以上 ○「校内研究・職員研修の充実に努めている」と回答する保護者80%以上	・校内研究・職員研修を計画的に実施し、視覚障害教育の専門性の向上、授業実践指導力の向上を図る。 ・新転任者研修や校内スキルアップ研修、外部講師による授業参観指導等を実施するとともに、出張報告会を通して研修の成果を共有化し、視覚障害教育の指導力・専門性の向上を図る。	A	・公開講座を4回実施し、外部講師による職員研修は2回実施した。「校内研・職員研修により指導力が向上した」と回答した職員は９７%であった。 ・『研究報告』作成グループ打ち合わせ会で『研究報告』の周知徹底をし、各学部で校内研究の推進をした。 ・自立活動の小中高連携を進めた。	A	校内研究・職員研修の充実に関して、例えば点字指導の工夫や小・中・高の教員を学部別ではなく横断的に取り組む体制の工夫、少人数のメリットを生かす教育活動の工夫等を行ってみてはどうか。（学校評議員） 研修会に保護者も参加させてほしい。（保護者）
	○教育の質の向上に向けたICT利活用	○「ICT機器を利用して、幼児児童生徒一人一人の視機能に応じた教材を活用できる」と回答する教員90%以上 ○情報セキュリティ確保に関する調査に対し適切に行っていると回答する職員90%以上	・ICT利活用教育について、視覚障害のある幼児児童生徒に特化した教材の工夫に関する研修会を行う。 ・「ICT-LETTER」を発行してICT利活用教育・情報セキュリティに関する情報を提供する。	A	・「ICT機器を利用して、幼児児童生徒一人一人の視機能に応じた教材を活用できる」と回答した教員は100%であった。 ・視覚に障害のある幼児児童生徒に特化した教材の工夫・情報セキュリティに関する自主研修会を6回実施した（VOD含む）。 ・「ICT-LETTER」を6回発刊しICT利活用教育・情報セキュリティに関する情報を提供した。 ・情報セキュリティ確保に関する調査に対し適切に行っていると回答した職員は９８%であった。	A	特になし。
	○寄宿舎における生活指導	○「寄宿舎生一人一人の実態に合わせ、自立に向けた支援指導が達成された」と回答する指導員・保護者80%以上	・個々の寄宿舎生の実態把握を綿密に行い、指導員全体で最も適切な手段を講じる。	A	・中間評価後も継続して寄宿舎生一人一人に対して丁寧に実態把握等取り組むことができた。寄宿舎生は、中学部から成人の方まで幅広い年齢層であることも考慮しながら、個別に対応することができた。「寄宿舎一人一人の実態に合わせ、自立に向けた支援・指導が適切に行われている」の質問で「あてはまる」と回答した職員は100%、保護者は95%であった。	A	特になし。

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度	今年度は「夢をはぐくみ、未来をひらく盲学校～アップデートと持続可能性～」を掲げ、３つの重点目標を定めた。新型コロナウイルス感染予防のための様々な対策を講じたことにより、学習指導や校内研究、巡回相談等の具体的な取組についてはは年間をとおして着実に遂行できた。その結果、数値目標はおおむね達成でき、学校評議員からも肯定的に評価していただいた。学校関係者評価を受け、今後も県内唯一の視覚特別支援学校として、更なる学力向上と校内研究・研修体制の充実に努めていきたい。